

令和 5 年度大阪市病院連絡会結果（概要）

開催日時：①12月15日	北部基本保健医療圏	場所：中央区民センター
②12月13日	西部基本保健医療圏	場所：中央区民センター
③12月20日	東部基本保健医療圏	場所：中央区民センター
④12月18日	南部基本保健医療圏	場所：中央区民センター

出席病院：別添一覧

1 地域医療構想の推進に関する意見

○特になし

2 病院の将来プランに対し意見のあった病院とその回答

（1） 公立・公的病院

●大阪公立大学医学部附属病院：
（病院への意見）

- ・住吉市民病院の跡地の新病院は、大阪公立大学の附属病院ということで、地域との連携が図れるため、地域は了承しているが、本当に大阪公立大学附属病院として、運営されるのか。民間委託して運営することを検討しているのか。

（病院の回答）大阪市との協定により、認知症等の研究施設、併設される新病院の病院機能については大学が運営を行う。開設時期が遅れたこともあり、その他詳細については決まっていない。

（2） その他、民間病院等

●特になし

3 その他

【高齢者救急について】

（1） 高齢者救急における現状と課題

- ・高齢者の救急搬送は増加しており、不要な搬送を減らす取組が必要であるとともに、適切な搬送先の決定や円滑な転院・転送を行うための体制整備が重要である。
- ・救急受診時にかかりつけ医の情報がなく、これまでの経過や治療方針がわかりづらいことがある。
- ・高齢者救急において、認知症のため本人の意向の把握が困難な場合や、独居・家族が遠方・キーパーソン不明などの場合には、意思決定ができず、治療方針の決

定が難しい。また、料金支払いの問題が生じることもある。

- ・高齢者は複数の基礎疾患を有することが多く、入院後の専門診療科や主治医の決定が難しい。
- ・病態として入院は必要がないが、帰宅手段がないためやむなく入院となることも多い。
- ・かかりつけ医などで事前に意思決定や治療方針の相談がなされていたとしても、特に夜間はその把握ができない場合が多く、積極的治療を要するのか悩ましい場合には、救急現場では救命処置をとらざるを得ない。

(2) 人生の最終段階における医療のあり方について、対応・工夫

- ・以前と比較すると ACP の理解は進んでいるものの、さらなる啓発が必要であり、かかりつけ医の果たす役割は大きいと考える。
- ・どの時期に、誰に誰が人生最期についての話をするのかが非常に重要である。施設での説明不足や本人の考えの変化、家族間での意見の相違など、現場では非常に苦労が多い。
- ・がん等の原疾患が進行した場合には病状や DNAR の方針について受け入れられるが、別疾患による急変時には家族が積極的治療を望まれるなど、救急現場では対応に難渋することがある。
- ・医療従事者側の ACP に対する知識不足もあるため、さらなる教育が必要である。
- ・病院において ACP に関するパンフレットなどを活用し、人生観を話し合う機会を設ける取組みをしている。社会全体への周知として、行政においても啓発を一層進める必要があると思う。

(3) 高齢者救急の受入れにあたって、今後必要な連携や取組

- ・ACP についての各病院での取組みが他院転送時や救急搬送時には伝わらないため、マイナンバーカードや保険証に紐づける等、かかりつけ医での ACP も含めた情報が伝わるシステムの構築が有用である。
- ・平時からケアマネジャーも含めて多職種間で情報共有をし、かかりつけ医への連絡体制を整備することが必要であり、病病連携、病診連携、施設との連携をより一層強化していくことが求められる。
- ・高齢者救急については、施設での看取りの受入体制も充実させるなど、在宅医療との両輪で進めていくことが必要である。
- ・金銭管理が困難となるような社会的背景のある高齢者の対応については、病院だけでなく行政も含めた対策が求められる。

出席状況等一覧

(別紙)

保健所名	公立・公的・民間等	対象※病院数 (A)	出席病院数 (B)	参加率 (B)/(A)	病院連絡会欠席病院	病院プラン		病院プラン未提出病院
						提出病院数 (C)	提出率 (C)/(A)	
北部基本保健医療圏	公立	2	2	100.0%	大阪整肢学院、真心会病院、明德病院、城北みどりヶ丘病院、大阪治験病院、淀川若葉会病院、成仁会病院	2	100.0%	
	公的	6	5	83.3%		6	100.0%	
	民間等	30	24	80.0%		30	100.0%	
	合計	38	31	81.6%		38	100.0%	
西部基本保健医療圏	公立	0	0		大阪暁明館病院、大場内科病院、大阪労働衛生センター第一病院、多根第二病院	0		
	公的	5	5	100.0%		5	100.0%	
	民間等	22	18	81.8%		22	100.0%	
	合計	27	23	85.2%		27	100.0%	
東部基本保健医療圏	公立	1	1	100.0%	高津病院、原田病院、大阪歯科大学附属病院、飯島病院、西下胃腸病院、朋愛病院、西眼科病院、関目病院、城東病院、新大阪病院、生野病院、啓生病院、優心会厚生病院	1	100.0%	
	公的	5	5	100.0%		5	100.0%	
	民間等	55	42	76.4%		55	100.0%	
	合計	61	48	78.7%		61	100.0%	
南部基本保健医療圏	公立	1	1	100.0%	奥野病院、愛壽記念病院、大和中央病院、咲洲病院、西中病院	1	100.0%	
	公的	2	2	100.0%		2	100.0%	
	民間等	43	38	88.4%		43	100.0%	
	合計	46	41	89.1%		46	100.0%	
合計	公立	4	4	100.0%		4	100.0%	
	公的	18	17	94.4%		18	100.0%	
	民間等	150	122	81.3%		150	100.0%	
	合計	172	143	83.1%		172	100.0%	

※：病院連絡会の対象は、病床機能報告対象病院